

- 宮古市では、持続的な森林づくりに向けて、担い手の確保・育成が課題となっている。
- 林業に対する関心の向上と担い手の確保・育成のため、森林環境譲与税を活用し、森林所有者や自伐型林業に関心のある方を対象に、フォーラムやチェーンソー研修、伐木造材研修、作業道開設研修を実施。

□ 事業内容

○森林所有者施業講習等

【事業費】4,312千円（全額譲与税）

1 フォーラムの開催

- ・森林所有者や自伐型林業に関心のある市民を対象に、基調講演と事例紹介、パネルディスカッションを行った。

【実績】参加者 55名

2 チェーンソー研修・伐木造材研修・作業道開設研修の実施

- ・森林所有者や自伐型林業に関心のある市民を対象に、チェーンソー研修2回（各3日間）、作業道開設研修1回（2日間）、伐木造材研修1回（2日間）実施。

【実績】参加者 チェーンソー研修14名（第1回）、13名（第2回）、伐木造材研修11名、作業道開設研修12名

□ 取組の背景

- ・宮古市は、森林が約91%を占めており、豊かな森林資源の持続的活用、放置林の解消に向けた森林整備を進めるため、担い手の確保・育成に向けて取り組む必要がある。自伐型林業は、長期的な視点で地域の森林を管理し、生業創出も期待できる林業スタイルとして関心が高まっており、今後、地域への定着を図っていく。

□ 工夫・留意した点

- ・1の事業は、自伐型林業に対する理解と関心を高めるため、基調講演と事例紹介及びパネルディスカッションを組み入れた。特に、事例紹介では、市内自伐林家の研修生を招き、1年間の研修成果と、宮古市における自伐型林業の可能性について発表してもらった。
- ・2の事業は、関係者と協議を重ね、初心者向け施業箇所を選定し、参加者がチェーンソー操作や伐木作業に多くの時間を費やせるようスケジュールを組んだ。また、少人数形式で、スタッフの目が行き届くよう安全管理を徹底のうえ行った。

□ 取組の効果

- ・フォーラム参加者のアンケートでは、講演を聞き、自伐型林業の理解が深まり、自分の所有する森林を手入れしたいという回答が多数あった。参加者のうち、2名が令和5年4月から自伐林家で研修を受けている。
- ・研修では、講師の指導のもと、技術向上が図られ、森林管理等に対する意欲が高まるとともに、参加者同士の繋がりも深まった。今後、自伐型林業グループの形成が進み、担い手の確保・育成が期待できる。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額:92,430千円	②私有林人工林面積（※1） :12,877ha	③林野率(※1):90.6%
④人口(※2):50,369人		

※1:「2020農林業センサス」より、※2:「R2国勢調査」より



（フォーラム）



（チェーンソー研修）



（伐木造材研修）